

公表

事業所における自己評価総括表

| | | | |
|----------------|------------------|-----|--------------|
| ○事業所名 | 宗像市障害児通園施設「のぞみ園」 | | |
| ○保護者評価実施期間 | 令和6年10月10日 | | ～ 令和6年12月25日 |
| ○保護者評価有効回答数 | (対象者数) | 11人 | (回答者数) 4人 |
| ○従業者評価実施期間 | 令和6年10月10日 | | ～ 令和6年12月25日 |
| ○従業者評価有効回答数 | (対象者数) | 5人 | (回答者数) 5人 |
| ○訪問先施設評価実施期間 | 令和6年10月10日 | | ～ 令和6年12月25日 |
| ○訪問先施設評価有効回答数 | (対象者数) | 4人 | (回答者数) 3人 |
| ○事業者向け自己評価表作成日 | 令和7年2月28日 | | |

○ 分析結果

公表日 2025/3/14

| | 事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること | 工夫していることや意識的に行っている取組等 | さらに充実を図るための取組等 |
|---|--|---|---|
| 1 | ・多くの子ども達の療育を行ってきた経験に基づいた助言ができること。 言語聴覚士、保育士など、複数の視点から考えた助言ができること。 | ・一方的な助言にならないよう、一人一人の子どもと園に合った対応を園の先生方と一緒に考え、園で出来る方法を検討していく。 | ・細かく状況を把握し、状況に合わせた細かい助言を適宜行う。先生方との情報交換を細かく行う。 |
| 2 | ・公的な児童発達支援事業所(センター)としての役割・機能 | ・園での取り組みが、家庭生活や就学に向けて良い方向でつなげていけるよう、広くて長い視点を持ちながら連携、情報交換を行っていく。 | ・細かく情報交換を行い、今後の方向性や就学に向けた支援についても、保護者の意見を伺いつつ、園とも一緒に考えていく。 |
| 3 | | | |

| | 事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること | 事業所として考えている課題の要因等 | 改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等 |
|---|--|------------------------------|--|
| 1 | ・訪問の頻度や期間に制限があり、十分な訪問が行えていない状況もある。 | ・宗像市として定められた、訪問の頻度や期間の制限がある。 | ・一回一回の訪問を充実させ、できるだけ期間内に状況の改善を目指す。 ・訪問の延長がどうしても必要なケースについては、十分に検討を行った上で、延長の申請をするなどの対応策と考える。 ・保育所等訪問に対する必要な知識と経験を積み重ね、研修を行い、職員のスキルを上げていく。 |
| 2 | ・職員の人数の課題があり、訪問が必要なケース全てには対応できていない。 | ・保育所等訪問専門の職員を配置できていない。 | ・必要なケースには十分な対応が可能となるよう、スタッフの充実を行っていく。 |
| 3 | | | |